

第3回インフラツーリズム有識者懇談会

平成31年2月26日

【観光・地域づくり事業調整官】 それでは、皆様おそろいでございますので、お時間が少し早いですが、ただいまより第3回インフラツーリズム有識者懇談会を開催いたします。

本日の進行を務めさせていただきます国土交通省総合政策局の菅でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、冒頭挨拶までカメラ撮りが可能でございますので、希望された報道関係の方々には、撮影をお願いいたします。

それでは、懇談会の開催にあたりまして、総合政策局長の栗田より、一言ご挨拶を申し上げます。

【総合政策局長】 栗田です。本日、年度末に向けて大変お忙しいところをお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。この懇談会は昨年11月に立ち上げさせていただきました。これまでインフラツーリズムの拡大に向けた取り組みについてご審議いただいております。

本日はこれまでの懇談会のご審議を踏まえまして、現地の状況に合わせて活用しやすいインフラツーリズムの拡大に向けた勘所、2020年に向けたプロジェクトなどについて整理の案をご提案させていただきたいと考えております。今後のインバウンドへの展開なども含めまして、魅力あるインフラツーリズムが全国に拡大し、地域活性化に寄与する取り組みとなりますよう、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴しますよう、よろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。

続きまして、本懇談会の委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

まず、清水座長でございます。

【清水座長】 清水でございます。よろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 次に、委員名簿の順にご紹介をさせていただきます。阿部委員でございます。

【阿部委員】 阿部です。よろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 河野委員でございます。

【河野委員】 河野でございます。よろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 篠原委員でございます。

【篠原委員】 篠原でございます。よろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。なお、行政側の参加者は、お手元の配席図に代えさせていただきます。

次に、お手元に配付しております資料のご確認をお願いいたします。次第の下のところに、資料配付一覧を記載させていただいております。資料に不足等がございましたら、事務局までお申しつけいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ここで清水座長から一言、ご挨拶をいただきたいと思っております。

【清水座長】 どうも皆さん、おはようございます。今日は3回目になりまして、既に随分と議論をしてきていると思っております。1回目を開催して以降、私も気をつけてメディアでの取り上げられ方を見るようにしていましたが、取り上げられる事例がかなり多くなってきて、非常に好意的に取り上げていただいている気がします。こういう時期であるからこそ表層に終わらない取り組みや、そのベースの理念をしっかりとしていかなければいけないと、そのような報道を見るたびに思う次第であります。

今後、今年度という意味でいうと、展開の仕方を考えるということでもあります。今日も議論になると思いますが、来年度にモデル地区で展開していくことにつきまして、2つ論点があると思っています。

1つが、ツーリズムにすることが非常に大事であることです。毎度申し上げるように、単なるインフラPRではなくて、きちんとツーリズムにすることが必要です。そのためには、2つ目に地域組織を強化していくことが非常に重要です。インフラ管理者だけで全うできる世界ではありません。モデル地区を選ぶときには、こういうところも考えなければいけないと、日頃から感じております。

いずれにしましても、今日は忌憚なく議論いただけるようお願いをしたいと思います。どうもありがとうございました。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。

それでは、冒頭のカメラ撮りはここまでとさせていただきます。

それでは、これから議事に移らせていただきます。以降の進行は、清水座長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【清水座長】 それでは、議事に入りたいと思います。

議事次第を見ていただきますと、拡大に向けたまとめと来年度の取り組みになっております。内容が多岐にわたっておりますので、はじめに1の拡大に向けたまとめと、2の手引きまで、資料1のところからです。そこで一旦議論しまして、その後に残りの3の提言案について議論したいと考えております。まずは、事務局から説明をお願いいたします。

【事業総括調整官】 では、ご説明をさせていただきます。事業総括調整官の吉田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。お手元の資料1、拡大に向けたまとめと来年度の取り組みについてと、資料の2のインフラツーリズム拡大の手引き～試行版～(案)、この2つを使ってご紹介させていただきたいと思います。

資料1を1枚めくっていただきまして、本日の主な議題で1枚つくっております。第1回を11月9日に、第2回を12月25日にさせていただきました。2回の懇談会でいただいたご意見をざっとまとめております。

インフラツーリズムの拡大のためには、大きく3つのポイントがあります。魅力を高める、持続的に展開していく、拡大の考え方と。インフラそのものの魅力を高めていて、作り出す空間の活用や、いらっしゃる来訪者の方々に合わせたバリエーションも検討していきます。シナリオをつくって魅力を高めて行っていくと。

先ほどの清水先生のご挨拶にもありましたが、持続的に展開していくためには地域との連携をしっかりと行っていく必要があります。あと、拡大の考え方としても、前回までの議論では目標を来場者数に置いていました。また、来場者数でAランク、Bランク、Cランクと分けていましたが、来場者数だけではなくて、ほかの観点からも設定していくべきではないかというご意見をいただきました。

ということで、今回の議題といたしましては、右にありますインフラツーリズムの拡大に向けたまとめで、どういうことをしていけばよいのかということと、そのまとめを元に現地状況に合わせて活用しやすいポイントをまとめた手引きの案をつくっているということで、こちらについてご紹介をしたいと思っております。

まず、最初の説明をここまで一気にさせていただきました。また、2枚めくっていただきまして、インフラツーリズム拡大に向けたまとめでございます。まず、理念が大事だと。

前回までのご議論で、インフラツーリズムの理念をこの黄色の欄のところにまとめております。インフラツーリズムはインフラへの理解を深めていただくため、これが一番大事と。普段訪れることのできないインフラの内部や日々変化する工事中の風景など、通常では見られない非日常を体験するツアー、これをまさに地域と連携して展開することでインフラの理解も深めていただきますし、地域に人を呼び込んで地域の活性化に寄与すると。これを理念とすべきだといいただいております。

インフラのツーリズムの拡大を図るために、まず、インフラに来てもらう。楽しんで理解してもらう。地域に滞在してもらう。ということが大事で、これを実現するために観点としては大きく3つです。人を呼び込むためにどうするのか。より多くに人を受け入れるためにどうするのか。持続的に展開するためにどうするのかと、この右に挙げてある7つの項目が必要といいただいております。

次のページをごらんいただきたいと思います。こちらの図は、前回まででもご紹介させていただいております。一番左の欄が「土木広報としてのインフラの見学会」をやっていたインフラツーリズムと、これを目指すべき姿としてはどんどん右のほうに持っていきたい。真ん中の欄が「人を呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」て、一番右の欄では「周辺の観光資源とも連携をして周辺への立ち寄りや地域の宿泊も促し」て、地域の活性化につなげていく、こういう流れと考えております。

その次のページが、各段階でどういうことをしていくのかを考え方として……。インフラを訪れる方々も年間に100人ぐらいのところから、年間に1万人を超すところまでいろいろございます。前回はこれをABCランクで書いておりましたが、ご指摘もいただきまして、ランクではなくてそれぞれの段階に応じて何をしていくかとまとめ直しております。

例えば、一番左では年間100人ぐらい来られるところを、年間1,000人ぐらいまでまずはたくさん人が来始めてほしいと、知名度を上げたい施設ということで考えてみました。こういったところは施設の見せ方を工夫し、インフラ自身の魅力を再発見して、そういったことをうまく魅力を高めていくことからスタートするというので、横軸を施設の見せ方に考えました。施設の見せ方をよくすると、人がたくさん来られるのではないかと。真ん中が来訪者をより増やしたい施設です。年間1,000人ぐらいから1万人ぐらいまで増やす際に、インフラの魅力をしっかり発信をして、また訪れた方々への対応もしっかり行って、より多くの方が来訪できるようにする段階ではないかと。一番右が年間1万人ぐらい来ら

れるところを、さらに 10 万人ぐらいまで増やしていくことでいきますと、地域の連携や旅行者の方々と連携を深めて、さらに地域活性化を図ると考えております。

この 3 つの段階でどういったポイントか、本日の説明の中心的なところに入ってまいります。次のページ、6 ページでございます。インフラツーリズムの拡大に向けたまとめです。先ほどご紹介した土木広報から、右に行く地域活性化に向けた取り組みまで、プラスアルファの付加価値をどうつけて、どう展開していくか。そのポイントを今回「勘所」という名前で整理をしてみたいと考えております。

一番左の区分のところは、先ほどご紹介した「人を呼び込むための工夫」と、「人を受け入れるための工夫」と「持続的に展開するための工夫」で分けております。それぞれに今後パンフレット・手引き等に使っていくときのアイコンも考えています。勘所としては、例えば施設を呼び込むための工夫としては施設の見せ方を工夫する。勘所の内容として、来訪者がインフラ施設を楽しめる見せ方や活用の仕方を工夫していく。次は、魅力発信です。インフラの魅力や価値を情報発信していくにあたってどのような工夫をするか。

「人を受け入れるための工夫」としては、対応要因・受入環境・安全性とあります。例えば、安全性であれば、来訪者の安全を確保してインフラ見学を実施するための工夫です。

「持続的に展開するため」には、持続性の確保と地域との連携、さらにインバウンドの展開と考えております。

具体的な内容については、さらにその次のページ以降に整理をしております。色分けは先ほどの 6 ページの色分けをそのまま使っております。

まず、人を呼び込むための工夫としては大きく、施設の見せ方、魅力の発信があります。施設の見せ方としては、どこをどのように見せると迫力があるか、驚きがあるか、そういうものを考えて現地で工夫していくことが大事です。

ここであわせて、資料 2 のインフラツーリズムの拡大の手引きをごらんいただければと思います。全体の構成はちょうどご紹介させていただきますが、今ご紹介したところに対応しているのが 7 ページと 8 ページ、まずごらんいただければと思います。

今ご紹介した勘所がこういうものだと、今のプレゼン資料とほぼ同じようなものを入れております。最後にそれを具体的に紹介しているのが、9 ページ、10 ページ以降になっております。勘所の、例えば施設の魅力を高める見せ方としては 10 ページにあります。ここで具体事例もあわせて紹介しています。例えば、本四の明石海峡大橋であれば管理用エレ

ベーターで主塔に登頂して、そこから見られる景色はもうここだけだというものや、首都圏外郭放水路でも立坑を見てもらうようにした。あとは、自動車道の関門橋でも天気の良いときと天気のよくないときで、それぞれ非日常を体験できるところを工夫している。このような工夫をしております。このような形で全体をまとめております。

また、資料1に戻っていただければと思います。魅力の発信としては、施設管理者による情報発信を早めに行っていく。多様な主体との連携による情報発信を行っていく。こういったものも、今ほどの資料2の手引きでは具体例をいろいろ入れております。

資料1の8ページでございます。人を受け入れるための工夫として、対応要員の確保で観光需要が高いところです。民間事業者との連携をして、人が多く来ることになると、土日祝日での開催や受け入れ枠の拡大が必要となってくることが多いです。施設管理者主体の対応で難しい場合には、民間事業者、NPO、ボランティアの方々等と連携する。受入環境の確保としては、現場における受け入れの工夫で動線を工夫する、インフラ側でトイレ、駐車場を十分に整えることが難しい場合は、周辺施設との連携も行うと。安全性の確保としても、人が増え始めるとここが非常にポイントになると思います。観光資源として元々活用が想定されていなかったインフラの内部などを開放する場合には、十分に安全性を確保するという事です。これは先ほどの資料2の手引きでいきますと、21ページに事故を回避する対策として、関東地整の川俣ダムで行っている転落防止策の隙間を防ぐ。あとは、明石海峡大橋で落下物の防止策など、このようなことを行っていると、ここでも具体的に紹介をしております。

資料1の、今度は9ページでございます。持続的に展開するための工夫として、持続性の確保、地域との連携です。持続性の確保で紹介している地域との協議会の運営です。インフラの観光資源としての活用について、地域の方々と連携して理解を得ながら実施していくため、地元関係機関からなる協議会を運営していくと。あとは、観光地域づくり協会のDMOや旅行会社さんとも連携をして幅広く行っていきます。これも具体的な事例としては、手引きの23ページ、24ページにさまざまな各地の取り組みを紹介させていただいております。

地域との連携では、そのインフラツーリズムを地域活性化につなげるため、観光客の地域での滞留時間を少しでも長くできるように周辺の観光資源と連携すると。インバウンドの展開でも多言語化の取り組みを進めていきます。これまでもさまざまな場面でご提案い

ただいていた内容ですが、今回少し体系的に地域にも施設管理者や地域の方々にも取り組んでいただきやすいように、今回少し体系的に地域にも施設管理者や地域の方々にも取り組んでいただきやすいように、順番をつけて整理をして具体事例を整備しました。以上の工夫や取り組みを現場で進めていくべきだと考えております。

資料1で10ページからが、今並行して見ていただいておりますが、資料2のインフラツーリズムの拡大の手引きの進め方についてと整理しております。

11ページをごらんいただければと思います。先ほどご紹介したようにまとめさせていただくその勘所を元に、現場でも使っていただける手引きとしてつくると考えております。今回タイトルに意図的に「試行版」と入れております。今回体系的にかなりまとめたつもりではございますが、現場で使いながらブラッシュアップをしていくことを込めて、このようにつくってみてはどうかと考えております。これは本日のご議論を経まして、近日中に公表させていただければと思っております。この冊子を配布することと、国交省のホームページで全文公開して、多くの方々に使っていただきたいと考えております。

大きな流れとしては、後ほどご紹介しますが、来年度はモデル地区でのプロジェクトが動き出します。それを通じて試行していく。そのほかの現場でも、例えば人材育成の研修でも使っていただけたらと考えております。そういった辺りで内容をさらに充実させて、2020年度には周辺の観光資源の関係者にも本格的に展開をしていってはどうかと考えております。

構成です。構成につきましては12ページをごらんください。「手引き～試行版～」の構成です。あわせて、資料2の開けていただいて目次のページがありますので、これと一緒に見ていただければと思います。

大きく1から5までの構成にしております。1の現状と課題と2のインフラツーリズムの拡大に向けてにつきましては、前回までの懇談会でしていただいた議論を元に、インフラツーリズムはどういうものかを中心にまとめております。3のインフラツーリズムの拡大の勘所が、今ほどご紹介させていただきました勘所と具体の取り組みのページでございます。4のところには先進事例の取り組みで、事例の紹介は今回の勘所のポイントもつけて、少し掘り下げた形で代表的なところを紹介しております。5のところでは実施にあたっての留意点が入っています。これはしげしげと見てみると、前のページまででほとんどカバーされているところでした。この留意点を残すかどうか、事務局でも今考えています。

留意点という観点でこういうことを書くべきだなど、もしそういったところがありましたら、ご意見いただければ非常に幸いだと思っております。

ざっと資料2の手引きは今見ていただいた目次のページ、めくって「はじめに」と、冒頭のところで写真が主に見開きで入っていて、イメージを最初に写真でつかんでいただけるようにと。最初の現状と課題等については委員会でご紹介した内容で、途中の7ページ以降の勘所は先ほどご紹介させていただいた、という構成になっております。

以上で、事務局からの1つ目のご紹介をさせていただきました。どうぞよろしくお願いたします。

【清水座長】 ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明について、質問、ご意見等ある方はお願いをいたします。いかがでしょうか。

【篠原委員】 いろいろな角度からいいですか。

【清水座長】 結構です。

【篠原委員】 篠原でございます。お願いいたします。

まず、ご報告になります。この2週間でマスコミのインフラツーリズムに関する取材が5件来ております。テレビが2件と、そして新聞が3件来ておまして、非常に興味を持っているようです。「どこからこの話題の興味をお持ちでしょうか」と聞くと、「観光庁の予算の13億でインフラ観光が明確になっている、具体的内容を聞きたいです」でございます。

そのときに、私がいつも話をしているのは、この根本的な観光立国の話もちろんあります。その前に共通して私がマスコミに言っていることは、災害の激甚化が非常に多くあるわけです。まさに20年に1回、50年に1回というものが国民の身の回りに随分起こっているわけです。これをもう一度国交省さんでも新しい仕組みづくりでいろいろな対策会議が立てられているわけです。この激甚化している災害とインフラを、国民にまずベースとして深く理解をしていただくことが大切だと。ですから、今まで何かダムや堤防でどうだという話をすると、ムダだという話がありました。これは全然世論が変わってきていると思います。ここの話を「観光」という切り口をベースにしてより深く伝えることだと、これが国の大きな施策だということを、勝手に私は言っております。

こうした話の中に、こちらの手引きの話になります。この部分の初めでございますが、まさにコンセプトの文章が述べられています。今、冒頭申し上げた国として国民の意識が

変わっていくことが大事だと。この辺を入れていただくと、さらにいいと感じたわけでございます。

それから、ざっくりとした感想としてはこの手引書は、いろいろな手引書を私はつくってまいりましたが、アイコン等の使用もあり非常に親しみやすく、そして体系的にもわかりやすくまとめられてご努力されていると、非常に感じております。それから、最後、吉田さんからお話があった今後の留意点のお話でしょうか。

【事業総括調整官】 説明をきちんとしませんでした、47 ページですね。

【篠原委員】 47 ページですね。この辺のお話です。これはごらんいただくのはまさに内部というか、広くなのですが、これは国交省の現場の皆さんを含めてのお話ですね。

【事業総括調整官】 そうですね、はい。

【篠原委員】 もう少しいろいろ付加する必要があると思っています。あとでまた事務局と整理をして提案したいと思います。

以上でございます。

【清水座長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。回答は特にいいですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 「はじめに」のところはご指摘のとおりです。

【清水座長】 ほか、いかがでしょうか。

今の篠原先生のご発言に関連しまして、私も冒頭でインフラツーリズムなのでツーリズムは大事だと申し上げました。本筋の土木PR、土木広報もだめと言っているわけではなくて、むしろ、ツーリズムをうまく使えばいいのではないかと考えています。

それで前回のときに、資料で言うと手引きの4 ページですね、必ずしも右に行くストリームだけではないと申し上げたと思います。右から左に行くことも十分に可能です。これらをうまくつくり上げていくことが、多分今篠原先生がおっしゃったようなことに答えていく道になると個人的には思っています。

今はまだ試行版なので、あまり右から左に行くストリームは考えられないかもしれませんが、少しでもこういうものが展開していくと、ツーリズム色の強いインフラツーリズムから、土木PR色の強いインフラツーリズムのほうに変化していく可能性もあると、個人的には思っています。

【事業総括調整官】 わかりました。例えば、周辺に魅力的な地域資源があって、その近くにインフラがあって、周辺の魅力でインフラにもたくさん人が来ていただけるよう

なときに、来た人により深く土木のことをわかっていただく流れも、今右から左のイメージとしてはあります。

【清水座長】　そうですね。インフラが何かしらの地域ストーリーの中の1つのコアを占めているケースだと思います。そこで、インフラそのものに興味を持っていただいて引き込むときに、その地域とそのインフラの関係を深く知ることとさることながら、横展開と言いますか、例えば、似たようなインフラ、似たような地域の脈絡でと、思いがはせられるようになると、拡大の仕方がかなり変わってくるのではないかと思います。

【事業総括調整官】　わかりました。ありがとうございます。

【河野委員】　例えば、琵琶湖疎水などがそのパターンだと思います。今は、疎水クルーズを紅葉と桜の時期だけに京阪さんがやっていたらいいと思います。多分クルーズというエンターテインメントだと、紅葉と桜を見に来ていて、京都のついでにベストシーズンに来るという入口なので、完全にこの右の入口です。実際見ると「超かっこいい」というところから疎水を知る。では、ほかのところの疎水というと今度は、今回の中では地域の連携で地域の中の拡大というテーマだけですが、では、安積疎水はどうだ、〇〇疎水はどうかというテーマで横連携する、飛び地でのネットワークの連携の仕方です。「うちと違ってここはそこがいい」「あそこがないこれがうちにはある」とつなげていくことも可能性として出てくると思いました。

【事業総括調整官】　ありがとうございます。

【清水座長】　ほか、いかがでしょうか。

【阿部委員】　よろしいでしょうか。手引きは、まずは管理者の方向けということで理解しています。そうすると、手引きの最後に掲載されている留意点は、手引きのもっと前のほうに持ってきたほうがいいのではないかと思います。管理者の方がインフラツーリズムの取組みを実施しようとしたときに、実施してみるといろいろな課題が出てきます。そこでまず、こういう課題がありそうだということを示したほうが良いのではないかと思います。現在の手引きでも課題が示してありますが、これはインフラツーリズムの拡大に向けた課題であり、インフラツーリズムを実施する際の現場の課題というよりも、本省サイドの課題のようにとらえられます。もう少し現場に寄り添った課題が、最初に示してあったほうがいいのではないかと思います。そうすれば、手引きの記載内容の重複感も軽減できるのではないかと思います。

【事業総括調整官】　そうですね。それで問題意識を持っていただいて、後ろを見ていただけるようにします。

【阿部委員】　それから、これはもし入れることができれば入れていただきたいのですが、手引きの「はじめに」やその前の辺りで、インフラツーリズムの大きな流れに触れることができないでしょうか。明確に「インフラツーリズム」と言い出したのは最近ですが、現在インフラツーリズムと呼んでいる取組みは、それ以前からありました。たとえば近世には、岩国の錦帯橋を見るためにわざわざ山陽道から逸れて遠回りをして岩国に寄ったり、あるいは甲州街道に架かる山梨の猿橋を見ることを楽しんだりしていました。一方、何年か前の国土交通白書の巻頭には、古代からのインフラ建設の歴史を振り返るパートがありました。現在のインフラツーリズムの盛り上がりは、過去から続く取組みの延長線上にあると思いますが、昨今の激甚化する自然災害に対して、インフラに対する関心がより高まってきたことがその背景の一つにあると考えています。今回の手引きや提言のとりまとめというのは、この機を捉えてインフラツーリズムを体系化していこうというのがねらいではないかと理解しています。そのあたりのことを手引きの前段で触れると、手引きが文化的というか、内容に厚みが出てくるのではないかと思います。

それから、これは今回の試行版ではなくとも、次の第2版、第3版の段階で盛り込めればよいのですが、インフラの魅力を高めたり、施設の見せ方を工夫したりするときに、おそらくこの手引きで書かれているのは、現在すでにある施設に対しての取組みだと思います。一方、これから造るものに対して、いかに魅力の高い施設をつくっていくかという視点も重要です。それは、企画・計画・設計の段階から、このような工夫をすることによって多くの人々が来る施設になったなど、例えばそのあたりをコラムなどで紹介してはどうかと思います。そのコラムが増えていくと、なぜインフラツーリズムを推進していくのかという一つの解と言いますか、質の高い施設をつくる必要性に気づいてもらえる可能性もあるのではないかと思います。

私は、テレビ取材を受ける側というより、テレビを見る側におりますが、この間、あるテレビ番組でダムマニアの方がコメントしていました。八ッ場ダムツアーがとても人気がある一方で、その方の一番のお勧めは白水ダムでした。白水ダムは、正式には白水堰堤だったと思いますが、農業用の堰堤です。このダムは戦前につくられた施設ですが、越流の際、非常に美しい流水表情を見ることができます。つまり、質の高い施設を造れば、別に

見せる場所を整えたり、特別に集客の工夫をしたりしなくても人が来る施設になるのではないかと思います。次のステージ、ステップになるかもしれませんが、そうしたコラムを充実していくといいのではないかと実感しました。

【清水座長】 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

今の留意点をご検討くださいますよね。私も同じように思いまして、中身としてはこの位置かと。留意点はもう少し違うものがあるのかと。どちらかと言うと導入に近い話だと思えます。

【河野委員】 今回は充実させるのは難しいとは思いますが、類型化をしてほしいのが15ページです。情報発信のところです。今プロモーションなど知ってもらう、興味を引くための情報発信と、あとは、もう行く気になっている人向けにどれだけ詳しい情報を与えることで、ユーザーフレンドリーになる情報が混ざっている状態になっています。その情報を発信するというか、どういう段階の人に出すための情報の工夫なのかというジャンル分けができてくると、より多分この具体事例も次回に向けて、そのブランディングの段階を知ってもらう段階とか、より詳しい実際に行ってもらうために、興味を持った人を逃さないために、しっかり獲得する段階など多分3段階ぐらいあると思えます。それを設定したほうが多分読む側がやりやすいかと思えます。

【事業総括調整官】 ありがとうございます。

【清水座長】 関連して、施設の見せ方のところも同じ議論があります。今事例がここまで類型化するほどないでないことが多分あろうとは思いますが。こういった取り組みがあちらこちらで進んできたときに、少し観光客目線から見たときにその方のステージとインフラのどういう側面に魅力を感じているのかという、資源性に基づいてそのうち整理ができてくると思えます。先々第2版、第3版と展開をしていくときに、そういう意見があったとご記憶いただければ。

【事業総括調整官】 はい。

【篠原委員】 よろしいですか。この9ページ、10ページ辺りからです。施設の見せ方があり、情報発信、魅力発信ですから、この見せ方のポイントが明確に顧客価値にきちんとなっていないと、幾ら魅力発信といっても非常に薄くなるわけです。今までのインフラ観光のPRは、何かイベント的なものを漠とした部分でPRをしてきたという過去だと思えます。この施設の見せ方についてです。

例えば、外郭放水路についてもプレミアムの1から8まで、何がどのように楽しめるかを短い言葉で端的に伝える仕組みになっています。お配りしたパンフレットを見ていただくとうかると思っています。そのようなつくり込みを、「顧客価値」というよく言葉を使いますが、我々が見せたいと思っていたときに、「すごいでしょ？」と思うことがお客様のほんとうに価値になっているのかどうかです。ここはきちんと足を止めながら深掘りすることです。これが施設の見せ方のポイントになると思います。

これができあがったものをわかりやすく魅力として発信できないといけないので、八ッ場も5つの進化と10の目的別ツアーです。そこが非常にタイトルを含めて面白く表現できているので、人気になったと思います。この辺の施設の見せ方は何かそうした事例がありますから、いいモデルとしてご紹介いただくとわかりやすいかと思います。

【事業総括調整官】 すいません。今の篠原先生のご指摘のところで、このパンフレットの中でまだ充実はしきれていませんが、29ページ、30ページのところで八ッ場ダムを紹介のページを設けております。こちらの中に我々の表現、トーンが平板です。30ページのところで、ポイント1として多彩な見学テーマとプレミアム間の演出、ポイント2で見学会から「やんばツアーズ」になったところで、先生が今お話いただいたことを少し触れようとは試みておりますので、表現ぶりを含めてご相談させていただければと思います。

【篠原委員】 そうですね。多分この表が30ページにございまして、書いていただいています。これはまさに同じダムを見せながらも、目的別で違っている内容なので、要は5つの進化と10のツアーなど、何かタイトルを入れて差し上げるとわかると思います。

【事業総括調整官】 そうですね。入れると伝わりやすいですね。

【河野委員】 たくさんあることや「特別感」という言葉は、とても汎用性の高い言葉なので、自分たちでつくっている側が特別感だと言い切ってしまうと、そうになってしまいます。顧客はそうは思わないところが留意点だと、篠原先生はおっしゃっていると思っています。

この30ページの表もこのツアーは何が工夫されているかという、テーマの言葉選びです。「自然と歴史とダム」が1個目にあると、これはお得感がありそうないっぱい知りたい人向けだと自分がわかるし、「巨壁が目前に迫る」というとこれはもう躯体自体、スケール間を楽しみたい人向けなどが、言葉1つだけで自分はこれが好きとわかるような工夫ができていることを文章で表現できるといいかと。

【事業総括調整官】 わかりました。その辺も盛り込んだらいいですね。

【河野委員】 表現を変えれば、多分同じボリュームで入ると思います。

【清水座長】 「多様な需要に向けてきちんと考えてやっています」という類のことが、一言でも入れればいいことですよ。

【篠原委員】 細かな表現方がいいでしょうか。30 ページの話です。例えば、この表の部分の「八ッ場ダムファン倶楽部見学会」がありまして、テーマが「普通の見学会では物足りない方！」になっています。これは全国のダムマニアが何をどのように見たいのかとヒアリングして、できないことを全部かなえてあげようというもの。だから、非常にこれはあっさりとした事務的な表現でありまして、ここのキーワードの部分あまり出ていない。ただ、余りここでこだわっても我々の思いだけになってしまいますので、今後でもいいですが、その辺のこだわりが大事だと思います。

【清水座長】 そうですね。手引きなので、全部ここに盛り込むのかということがありますし、せっかくポータルサイトなどもありますし。

【事業総括調整官】 はい、あります。

【清水座長】 それとうまく連動して、もっと詳細を見たかったらそちらを見ていただくというように、ポータルサイトとこの手引きの連携の中で解決する方法もあります。それもご検討いただければと思います。

【事業総括調整官】 ありがとうございます。

【清水座長】 たしかに、いろいろ入れ込んでみたくはなるでしょう。スペースの制約もありますし、いきなり最初からおなかいっぱいになってしまうのも。

ほか、いかがでしょうか。

【河野委員】 すいません。もう1つ、22 ページです。持続的展開の中でのDMOや旅行会社等との連携による継続性確保の中の書きぶりです。ノウハウが非常にこれが難しいというか、たくさん含んでいます。おそらくインフラツーリズムを持続的に展開していくために、DMOや旅行会社と連携するメリットは、自分たちのまず手間が省ける人的コスト、流通や販売などを旅行会社なりDMOがやってくれることの楽しさもあります。

あとは、お客さんを抱えているというネットワーク、管理者と比べると市場に近い。その情報という意味ではノウハウかもしれません。そういう流通経路を持っていることや、ほかのダム以外の地域の観光資源などつなげられることなど幾つかの要点があります。

ノウハウという言い方にしてしまうと、多分旅行のそんなにプロではない管理者側の方々がお読みになります。この人たちと連携することによって、もちろん調整や連携する手間も発生します。手間よりもメリットのほうがこれだけ大きいとわかるような書きぶりでない、わざわざやりたがらないところがあるので、その辺り表現を工夫していただけるといいかと思います。

【事業総括調整官】 わかりました。

【清水座長】 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

【篠原委員】 これの運用、使い方は後ですよ。今の部分は中身だけ、今まずは分けたほうがいいです。

【事業総括調整官】 そうですね。ただ、この手引きは運用も含めて今ご議論いただけると。モデル的な取り組みのところは、後半のほうでご紹介していきたいと思います。そちらに関連することであれば後半のほうで。

【篠原委員】 そうですか。今度これについては、まずはこれが配布をされて、各地整で説明会など会議の席上でこうしたものが渡され、説明されて、前向きに取り組もうという話になると思います。

この間の会議のお話を披露させていただきます。水源地活性化会議というのが10日前にありました。その席上には、各ダムの水源地の首長が20人ぐらい来られていて、いろいろ熱心な議論をされていました。それはいろいろなパターンがあるので、一概にそれを鵜呑みにするつもりはないです。前向きな首長が何人かいて、一緒にやっていた所長さんが代わったら、次の方は全て何かできない、できないで始まってしまい、そういうことになることを複数の首長からもありました。

だから、ざっくり言うてしまうと、これができた後に総政局さんの思いと水局も当然思いはあります。何かもう一度一体感を持ちながら、現場の所長がこれはやらなければいけないと思うには、水局さんが本気にこれと連携して動いていかないと。そこをつながっていかないと、いいものができていても、現場がまた人によって温度差があってしまわないように。均一化させていく形の運用の仕方が非常に大事だろうと思いました。

【事業総括調整官】 ありがとうございます。省内の風通しをよくして、しっかりと皆に使ってもらえるようにしたいと思います。

【清水座長】 そうですよね。こちらは実施部局ではないですから。

【事業総括調整官】 何か魂が入って、やって評価になるかが正直言っていると思えますから。

【清水座長】 なるほどね。それぞれの局でこういうものに対応する部局が当然あるわけですね。多分総務系になりますか。どうですか。または、企画系ですか。

【事業総括調整官】 企画など、いろいろなところでやっています。

【清水座長】 そういうところとも、少しかなり深く話をしなければいけないということですね。

【事業総括調整官】 そうですね、はい。

【清水座長】 水資源や道路とか、関連するところですかね。

【篠原委員】 続いているですか。今日畠中課長が来られていませんが、いつもお世話様です。

この議論は今どちらかと言うと、ダムを受け入れの環境を整備して楽しく、そして深く見せようということです。これは広域観光のルートでもそうですが、何かインフラツーリズムについていかがでしょうか。観光地域振興課で、このような構想は面白いのではないかというものが何かございませんか。

【観光地域振興課課長補佐】 今一番地域の方々に力を入れていただきたいのは、観光資源を整備することと、受け入れ環境を整備すること、この2点が非常に重要だと。足元の観光地整備をまず力を入れてやってほしいと言っております。そういった取り組みに対して、今DMOという観光地域の経営組織を中心にした戦略的な取り組みを進めているところでございます。そのDMOに大分観光財源を寄せて、来年度の予算を執行していこうとなっております。

そのDMOの取り組みの中で1つ、このインフラツーリズムをポイントとしてご紹介して、積極的にコンテンツ造成に取り組んでいただきたいと。そのDMO側からインフラの管理者に働きかけて巻き込んでいくという、そちらのムーブメントもつくっていきたい。今おっしゃられた管理者側は本来業務のほうで、まずそこをしっかりとやるという意識が高いのはもう事実だと思います。観光地域系の官民の協力の中で、そういった動きをつくっていくことは観光庁としてもしっかりとやっていきたいと思えます。

【篠原委員】 そうですね。今これは重要なことだと思います。本来あるべき完結形が私の中にあるのは、ダム管理者あるいは道路の管理者の方がインフラツールに興味を持つ

ていただいて、「いや、これはできません」「あれはだめです」というものを、どうしたらできるかという議論をしながら頑張ってもらえるような環境整備をすると。DMOにつきましては、地域でいろいろな新しい連携を組みながら、収益事業としてそこに財源を確保していく動きになるわけです。ですから、今回のこの外郭の有料のお話も、今 2,000 円くらいのお話で春以降考え出しています。そうした部分の運営です。安全確保を現場ではしていただきながら、本来は今のお話にあったような観光庁が推進している組織が、こうした見学会を進められるようになってこない、なかなか定着しないと思います。そこを是非うまく連携を組んでいただきたいというお願いでございます。

【観光地域振興課課長補佐】 承知しました。

【清水座長】 DMOという関連で言うと、今、私は日本観光振興協会の総合調査研究所研所長と兼任で、人材育成組織の日本観光振興アカデミーの学長をやっています。ここでは、DMOの担い手の方にいろいろな研修プログラムを組みます。そういうメニューの一つに、例えばインフラツーリズムが、独立で組めるかどうかはともかく、入ってくると面白いと思います。例えば、今年辺りだと二次交通対策も予算化されはじめていて、とても興味が出てきていることもあります。DMOの方々は、交通のことはよくご存じないことが多いので、何を最低限考えなければいけないかを教えるようにしています。あとは、昔から産業観光は日観振としては取り組んでいてかなりの蓄積がありますが、インフラツーリズムとは趣が似ています。ですから、DMOやそれを取りまとめる組織にインフラツーリズムの動向の認識をしてもらって、その中で興味を持って人材育成やそれからその中で企画を組んでくるようなところまでにならないと、なかなか定着はしないだろうと思います。

【篠原委員】 そのいい仕組みの講座もあるのですが、どうつないでいったらいいかが見えにくいので、そこをきちんとつなげることと、あと今のお話で全国に外国人を受け入れるための広域観光ルートをつくられています。ダムもルート上にあることがありますが、実際に事業者が一生懸命整備をしたとしても、二次交通がほとんどつながりにくいのが特徴でもあると思います。これを総合的なDMOの大きな視野でいきますと、コミュニティバスをどうつなげてそちらを入れようかなど、いろいろな方法が出ます。だから議論が進んでいった後は、まさにおっしゃったようなDMOとのつながりをどう持っていくのか。運用はそちらに任せるぐらいの目標値を持って、成功事例をつくっていけばいいと思います。

す。

【清水座長】 いかがでしょうか。お願いします。

【阿部委員】 手引きを拝見すると、ダム的事例が多いですね。それはインフラツーリズムの特性なのかもしれませんので、そういうものだろうと受け止めるべきなのかもしれませんが、まだ結論出すのは早いかもしれません。

なぜダムが多いのだろう、なぜほかの施設が少ないのだろうと考えると、ダムは管理区域内でインフラツーリズムに係る様々な取組みを賄うことができます。一方、たとえば橋梁は、橋梁そのものを見せようとする、管理区域外、つまり他人の土地から見ないといけません。つまり、そうした底地の制約も影響しているのかもしれません。そこで、周辺との連携によって橋梁をうまく見せているというような事例があれば、さらなる展開の可能性が出てくるのではないかと思います。

【事業総括調整官】 そうですね。主塔の上から見ると。

【阿部委員】 橋梁を見るのは、公共空間であれば地元自治体の土地から見なければいけません。そのため、管理者サイドの自制心というか、遠慮というか、そうしたものも背景にあるのかと想像しています。何かそれをブレイクスルーするような事例があるのではないかと思います。

それから、砂防の事例がいくつかありますが、実はこの週末に、ツアーではありませんが、広島県の戦後の砂防施設を1泊2日で見学調査に行ってきました。砂防施設は山奥に設置されていますので、どうしても宿泊しなければいけませんし、施設群として成り立つものですので、一連の施設を見学する必要があります。

そうした一連の砂防施設群を見学というのは、どういう災害に対して、どの程度の土砂を止めるために、どういう構造の、どのような施設をつくっているのかといった理解につながりますし、最初に議論があったような水平展開にもつながります。また、砂防施設群は、施設を訪れてすぐに帰ってしまうのではなく、それなりの時間を費やして見学することで、地域への理解も深まって、滞在する時間も延びますので、パッケージで売り出すことが有効だと思います。そうした戦略というか、戦術というか、そうした観点から、周辺のインフラ施設との連携ももう少し明確に打ち出してもいいのではないかと実感しました。砂防を見学に行って、こうした見方をすれば、1泊2日のツアーは十分あり得るという思いがしました。そうした事例を紹介していただくと、いろいろな使い方ができるので

はないかと思います。

【清水座長】 たしかにね。

【篠原委員】 よろしいですか。たしかにご指摘のとおりで、これはインフラツーリズムの手引きなので、ダムツーリズムの手引きっぽくみんな見えてきてしまっている現実があると。ここのバランス感を取ることが大事だと思います。今ダムが八ッ場以降目立って頑張っているんで、道路局企画課さんと別件でいろいろなお話をよくします。そういたしますと、例えば「海ほたる」をNEXCOがご案内をイベント的にしています。これを恒常的にもっと楽しく見せようというのはどうしたらいいかという動きがあったり、第二東名の工事がまた始まっていて、それは南海トラフや東海大地震の状況がこのように想定できていて、その裏側に今道路がこういう深い計画の中で進んでいるものです。これもただ構造物を見せる話ではなくて、そのドラマを地域の部分の文化や地震の歴史など、そうした激甚化している国民の興味の部分とつなげていくような、こういう見せ方で道路だって幾らでもあると思います。是非今度は、道路局さんにももう少しまくつながるような仕組みを頑張っていたいただきたいと感じるわけです。

【事業総括調整官】 はい。

【河野委員】 関連していいですか。道路だと、最近このような地域で古道の復活などもやっています。インフラの災害に対応するための重要性や、そういうことはもちろん一番第一義的なものではあります。それだけではなくて、その道路があったからその地域がどうなった、なぜその場所にダムがあるか、先ほど阿部さんがおっしゃったように砂防ダムが集積しているところの暮らしぶりの独特さなど、その地域にこのインフラそれぞれのも存在する必然性があるって、その必然性を伝えることがツーリズムにつながると思います。その場所に行かないとわからない。ダムを見に行くというだけではなくて、ツーリズムにしたいのだから、その地域を見に行くところに一歩進めるのが、これまでのダム見学会やインフラ見学からツーリズムへの転換のところだと思います。その辺りのこと、ダムだけを見せるのではなくて、地域にこれがある意義を結構深く語れると、ツーリズムとしてきちんと進化できる場所もあります。その書きぶりが「はじめに」辺りに匂わせられるといいかという気がしました。

【事業総括調整官】 わかりました。

【清水座長】 そうですね。どうぞ、いいですよ。

【阿部委員】 例えば、コラムで箱根ターンパイクや伊豆スカイラインなども紹介してはどうでしょう。それまでの道路は観光移動のための施設だったものが、道路自体からの眺めを楽しむために造った道路が箱根ターンパイクや伊豆スカイラインです。こうした使われ続けている道路施設もあります。コラムでそういったものを1つぐらいは紹介してもいいのではないかと思います。

【清水座長】 委員側から一方的に発言していますが、事務局から何かありますか。

【事業総括調整官】 こちらで、今回のインフラツーリズムの中で非日常を見せるところを中心にご紹介する内容にしていました。普段入れないところを開いて見せるパターンが多く中で紹介をされています。なるべくバランスをよくしようと思ったのですが、結果的には見ていただいた通り、ダムが多くなったところはあると思います。

先ほどの橋の話や箱根のターンパイクの話も、行こうと思えば行って見ることはできます。インフラそのものの観光的価値を持って見るという、それは例え外側から誰が見られるものであっても、そういう付加価値を得ようとして見ると、また違った感動が得られるものも付加的に入れて紹介をしていくようにすると広がりが出てくるということでお話されていたのかと思いました。

【清水座長】 そうですね。阿部先生のご発言を聞いていてもっともだと思ったのは、場所といますか、ダムは敷地内、施設内で完結できるケースが結構多い。一方で、例えば橋を遠くから見ることを考えたときに、その橋が見えるところで幾つか展開が可能なわけです。そういうところに、例えば消費できるところがあると、そのインフラを見ることについては無料だけれど、地域経済にとっては有益である展開もありますよね。例えば、国交省的に言うと、得意の道の駅を变形させるなど、そういうのもあるかもしれない。

あと、例えば天竜川では、ダムをたくさん歴史的に整備をしてきて、今ではダムが土砂でかなり埋まってしまったわけです。幾つかのダムはほとんど事実上機能していない。逆に、そこでダムを造ってしまったので海岸が侵食したという話があって、海岸ではものすごく砂を定着させる努力をえていますよね。これをドラマと言うのでしょうか、それぐらい広域に1個のインフラが影響を与えているという例もあります。

そういうところだと、流域を1つの軸にしているいろいろな展開ができたり、インフラ自体の機能の影響力とインフラをどこから見るで、観光客の動線や場所性のような整理軸の方法も、今後事例が増えてくるとできる感じがしました。

現状では、対象としてダムが多いのは仕方ないところでもあります。多分数量を稼ぐとするとダムが一番。道路工事のツーリズム活用に興味があつて、昔研究したことがあります。道路工事は人数がさばけないのと、見どころの期間が短い瞬間芸のようなものが多い。時期を変えるといろいろな工事の様子が見られますが、1個1個のインパクトは全然大きくないし、なかなか周りの観光資源と絡めづらいこともあります。そのためインフラPRから抜け出せないという感触がありました。いずれにしても、場所はとても重要なキーワードだと、阿部先生のご発言を聞いて思いました。

そろそろこの議題は閉めたいのですが、いろいろご意見をいただいて、非常に前向きで改善の方向に対していろいろなヒントを頂けたと思います。時間制約もありますし、まずは今回は試行版ということでもあります。今までのご意見を最大限反映をさせていただいて、試行版で動かしながら、今回対応できなかったことや、運用していくうちにさらにいろいろなご意見が出てこようかと思えます。そういうものを2版、3版で対応していくことでよろしいかと思えます。

【事業総括調整官】 そうですね。

【篠原委員】 全部入れたら大変です。

【清水座長】 わかりました。

それでは、時間の関係上、次に進めさせていただきます。残りの3の提言の部分でしょうか。こちらの説明をよろしくお願いします。

【事業総括調整官】 資料1と資料2を中心にご議論いただきました。どうもありがとうございます。すいません。資料1の13ページからです。13ページからが今後の提言(案)についてということで、ご紹介をさせていただきます。

今ほども非常に多くご指摘、知見をいただきまして、大変ありがとうございます。こういったことをうまくまとめて外に発信していくこととあわせて、モデル的な取り組みも行いながらより深めていく必要があるのではないかと考えております。

そこで、この13ページに見出しが2つあります。「2020年に向けた取組」です。2020年は、元々この委員会の最初のほうにお話した「倍増する」と言っていた目標年次です。あとは、さらに「将来的な取組」で考えております。

1枚めくっていただければと思います。14ページで、2020年に向けてどういったことをやっていくのかでございます。四角枠の中に2つ丸がありまして、1つ目が今ご議論いた

いただいた勘所の活用です。インフラツーリズム拡大に向けて整理した勘所を活用して、全体の取り組みの全国的なレベルアップを図るとともに、国内外に向けてインフラツーリズムの魅力を発信するなどを行っていく。さらに、目に見える成果を出していくことを目指して、来訪者の増加に向けたプロジェクトを実施していくことを考えております。

プロジェクト2つ目の丸です。プロジェクトでは、今回の勘所も意識しながら施設の見せ方、体制の確保、地域と連携等を具体的に現地で実行する。社会実験の形でモデル地区を選んで実施して、より一層魅力的なツアーの造成や広報の展開、インバウンドへの対応などを図っていきたいと考えております。名称といたしましては、仮称でございますのでご意見いただければと思います。インフラツーリズムの魅力を倍増するプロジェクトということをストレートに表現して、「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」と。プロジェクトのメニューといたしましては、モデル地区で社会実験を実施すると。国内外に向けて魅力ある広報を展開すると。3つ目が、訪日外国人旅行者のニーズも把握して、インバウンド対応も始めていくというところで考えております。

1枚めくっていただければと思います。モデル地区での社会実験の実施です。この絵自体は、以前の懇談会でもお話をさせていただいたことがあります。これを具体化していこうということです。モデル地区を全国で5カ所程度今後選定して、魅力的なツアー造成に向けた取り組みを社会実験として行っていくと。中心になる、これはすいません、たまたまダムの写真がまたありますが、いろいろな施設分野を挙げていければと思っています。中心になるものと周辺の地域の観光資源、自然スポット、宿泊もできる場所、お土産も買えるところなど、こういうところと連携をしていくことをイメージしております。

1枚めくっていただきます。モデル地区での社会実験として、4つの観点を通じてさらに手引き的なものを充実させていくと。1つ目は資源の調査です。周辺観光資源を実際に調査すると。インフラ施設もさらに魅力的になる視点場、開放できる場所、現状の満足度をさらに上げるための調査、こういったものを行っていくと。地域資源を活用したツアーの企画で、これがいわゆる造成です。ストーリーのあるツアーの組み立て、シナリオの作成、説明要因の人材育成です。あとは、下見招待旅行、ファムツアーの実施です。こういった造成視察ツアーを旅行会社の方に来て見ていただいて、実際により魅力的なものになるかをご意見いただいて改善していく。さらに、インバウンドを意識しながら、訪日外国人旅行者の方や日本にいられている留学生の方々を対象に、ニーズを把握してツアーを

実施していく。こういったものの対象を選んだアンケート、ヒアリング、あとはWEBのアンケートなど広く行って、意見を聴取して反映をさせていく。また、持続的な体制づくりです。地域の協議会等を具体的に立ち上げていくと。持続的にツアーを実施するための体制を検討して、必要な施設整備等も整理してつなげていくことを考えております。

17 ページをごらんいただければと思います。全体の取り組みは先ほどのご紹介ですが、個別の地域ごとには、モデル地区で社会実験としては実験の後にきちんと継続的に展開ができることが非常に大事だと思います。この期間を通じて、各施設ごとにインフラツーリズム推進協議会を立ち上げていただくと。地域と連携した体制づくりやツアー造成を行っていく。社会実験を行うのとあわせて、引き続きツアーを企画・運営できるように、地域の観光協会やDMOの方々とも連携して行っていくと。スタートアップのところの力を一緒に込めることで、地域に継続的にこれが根づくように取り組んでいけないかと考えております。

左下の図で、〇〇施設インフラツーリズム推進協議会を立ち上げるイメージです。当初は、国交省の事務所が中心になって始めて、あとは地域の方も一緒に入れてDMOの方、観光協会、NPO、ボランティアガイドの方、地元自治体、またコーディネーターと今入れておりますが、先生方にもできましたらご参加いただけないかと考えております。

協議会での検討内容としては、インフラ施設の使い方、周辺の観光施設との連携、ツアーの運営主体、ガイドの育成などでございます。段階としては右にありますように、社会実験を行って、ファムツアーで検証して、改善点をまた反映して、得られた知見を整理・分析していくと。ほか地区へも展開をしていくように、この地域で行ったことを元にノウハウをまとめて、さらに多くの地域へ展開をしていくことを考えております。

18 ページとしては、どういう対象地域を選んでいくのか、考え方を書いております。全国さまざまな段階のインフラツーリズムを目指す施設があると思いますので、幾つかの段階の地域を選んでいければと思います。大きくはこれから推進していく段階、これから始めようとしている段階です。それと、ある程度人が来るところを更なるレベルアップを図る施設の2パターンで設定してはどうかと考えております。

この取り組みもまずは始めてみるということで、地方自治体にも多くの施設があることは認識しております。まずは、2019年度は直轄の管理施設及び直轄に準じた運用会社さんが管理されている施設を対象に、各施設管理者から地域の状況も踏まえた上で、推薦、手

を挙げていただきます。そこに先生方にも現地調査を少ししていただきます。これは多分年度明けで五、六月ごろに現地調査をしていただいて、その後にまたこの懇談会をやって、その中で決めて進めていくということでどうかと考えております。

対象要件としては、2つのパターンでそれぞれ考えております。パターン1がこれから推進していく施設、何よりも地域がうまく連携して立ち上がっていくことが大事だと思います。インフラツーリズムを推進することに管理者もそうですし、地域の方もそうです。積極的であること、周辺地域と連携する体制が準備されることと考えています。パターン2が更なるレベルアップを図る施設です。既に一定程度の来訪者があって、さらに今後インバウンドも含めて、更なる来訪者の増加を目指すところ、この大きく2つのパターンを考えております。

共通する要件としては、先ほどのお話の中でも多数挙げていただいております。インフラ単独の取り組みだけではなくて、周辺の観光資源との組み合わせを行って広がりを持つことができ、それを軸に社会実験後も継続性が見込めることと。メニューとしては、楽しんでいただけるような食事、1泊2日以上していただけるような宿泊、持ち帰って観光の効果を広げていただける土産物、そういったさまざまなメニューが組み込める、または今後開発していく意図と余地があることです。さらに、シナリオを深めていくために、地元の歴史や自然等に詳しい有識者の方と連携が可能なこと。継続性ということで、旅行業の資格がある組織と連携して、旅行商品として売り出すことが可能であること。この辺りを要件として選定してはどうかと考えております。

19ページでは、そういった取り組みを軸に、さらに国内外に向けた広報も展開していくと。先ほどまでは社会実験で、ここからは広報です。国土交通省ホームページ内にインフラツーリズムポータルサイトがございます。こちらを充実することと、さらにインバウンドを目指して多言語化すること。こちらを基本として、さらにインフラツーリズムの広がりを描きながらわかりやすい情報発信をしていくと。

先ほどのご議論の中でも、これまで非日常の展開で、見えてないところを見せることを軸に行ってきたところがありました。広い場所から美しく見える、観光でかなり人が既に集まっているような使い方をされているものがあるなど、そういったものも含めてうまく連携して打ち出していったらいいと考えております。そこが右の緑の欄の①で、既存のポータルサイトを多言語化したり、②で国交省関係の観光関係の情報を広く収集して、ポータル

タルサイトでまとめて発信していくところを描いてみてはどうかと考えております。

さらに、下にシンポジウムとあります。かなりソフト的にも集まってくると思いますが、対外的に発信をして、機運を高めていく場をつくることも必要ではないかと考えております。インフラツーリズムに関するシンポジウムを開催して、認知度を高めていってはどうかと。

そういったところでも活用できるように、20 ページでございます。PR 動画を作成していくことや、情報誌を制作していくことも進めてみてはどうかと考えております。

21 ページでございます。インバウンドの話題が少し出てきておりました。具体的にはここで書かせていただいたようなファムツアー、下見招待旅行のときにニーズを把握するというので、観光に訪れた方への案内や日本にしばらく暮らしている留学生の方々のご意見などニーズを把握すると。さらに、広くニーズを把握するために、海外を含めたWEB 調査を行ってはどうかと考えております。以上のような取り組みを積極的に取り組んでいってはどうかと、事務局の案としては考えております。

さらに、22 ページでございます。以前の懇談会の中で、インフラツーリズムの倍増で、インフラ施設への来場者数がこのページの一番下にあります。全国で約 360 から 40 ぐらいの施設で、年間約 50 万人をいろいろ取り組むことで 100 万人に増やしたいと考えておりましたが、人数だけではないだろうとご指摘をいただいたこともあります。左に例としては、環境省さんが行っている国立公園満喫プロジェクトの中でも、さまざまな質に関する指標を立てておられます。そういったものや地域のDMOさんが設定しなければいけないKPI もいろいろあることを念頭に置き、右のピンクの欄です。社会実験を行うモデル地区でツアー参加者へのアンケートなども行いまして、旅行の消費額、満足度、リピーター率な、施設来訪者数など、こういったものも調べて指標にしていってどうかと考えております。また、広く行うWEB 調査を 2018 年、去年に一度行っております。この認知度は 16%、来訪度 15%、こういったものが上がっていくかどうか調べてみたいと考えています。これとあわせて来場者数も増やしていきたいと、広い視点でこの取り組みを目標を立てて打ち出していってはどうかと考えております。

また、23 ページでは、プロジェクトと名前をつけることと、これをいろいろなところに打ち出していくときに、概念がこういうものだとして認知してもらいやすくするアイコンとして、ロゴマークを作成してはどうかと。これも以前ご提案させていただいていたものです

が、案として3つ、今の段階で考えております。

この絵の3つですが、1つは一番左です。「倍增プロジェクト」という名前がこのまま認められた場合ですが、「魅力倍增プロジェクト」という名前と「2倍」を前面に押し出して、「×2」という印象がわかるようなもので考えてみました。下に説明が書いてありますが、水と国土を表す色と多くの方々に来ていただけるように、海外を表す海と2倍と、こういったものを入れ込んでみたロゴでございます。真ん中がインフラツーリズムそのもの、日本を支えているインフラと今日のお話の中でも多々ございました。インフラが日本を支えていることとあわせて、インフラツーリズムを表現した日本を文字が支える案でございます。一番右がインフラツーリズムをシルエット的に、離して見ていただくとシルエットだとわかるのではないかと思います。こういったもの、例えば写真のすかしで入れる、デザイン的に工夫したものも考えてみましたので、こういったものも案としては今考えております。こちらにつきましても、この3案のうちどれか1つの案を中心で打ち出していきたいと考えておまして、モデル地区の選定を五、六月ぐらいまでかけて行います。この間を活用して、施設管理者の皆さんやいろいろな方々にアンケートやご意見を聞きながら、集約して行って、また委員会の場で決めていただければと考えておるものでございます。

以上のようなことを2020年度に向けた取り組みの、まずはじめとしてスタートさせてみてはどうかという案でございます。

さらに、24ページです。将来的な取り組みといたしまして、今日のご議論でも多々いただいております。更なる魅力向上に向けた課題も、ここに挙げておりますものだけではございません。こういった取り組みの中でさらに広がりや深みを増していくために、モデル地区で得られた知見をさまざまな事業に展開など、人材育成の取り組み、リピーター確保など更なる情報発信、民間事業者さんにご協力いただくためには、どのようなところがポイントになるか、地域資源をつくっていく、連携していくための更なる具体的なポイントなどその辺りを深めて検討していただけたらと考えております。

以上が事務局からのご説明でございます。よろしくお願いたします。

【清水座長】 ありがとうございます。それでは、今後ということですが、ご意見等よろしくお願いをいたします。

【篠原委員】 よろしいですか。吉田調整官、先ほど冒頭、件数5件ぐらいとお話があ

ったかと思います。これは先ほどこのページで申すと、18ページのパターン1とパターン2があります。これを合わせて5件ぐらいという意味ですか。

【事業総括調整官】 合わせて5件程度、程度です。

【篠原委員】 程度、わかりました。

【事業総括調整官】 いいところがあったらまた変わります。目安として「程度」です。

【篠原委員】 長年やっているのと、いろいろなことが経験上出てきます。はっきり言って5件では少ないと思います。

【事業総括調整官】 なるほど。

【篠原委員】 このパターン1とパターン2の大まかな分け方はいいです。例えば、道の駅で申しますと、全国モデルの道の駅は6つあります。これは、既にかなり地域振興、あるいは防災、いろいろな特化した部分がきちんと全国モデルとしていけるものを6つ選んでいます。例えば、ハッ場にしても頑張っているところがあって、これをさらに伸ばしていく部分のパターン、これはパターン2にも当てはまると思います。この類はもっとインバウンドを含めて、高める部分だと思います。全国モデルは何件かです。それから、道の駅でいうと、その下は重点道の駅があります。重点的にそれを仕上げてきていきたい部分です。これは可能性があるだろうという、審査の基準もイメージしてあるので後でお話します。その適用していけるところについては、重点的に支援していこうというお話です。それから、道の駅で重点候補もあります。3段階になっています。だから、やる気があって、まさにこのパターン1、これから手をつけたいところについては、重点候補のような、名称は別です。そういう形で、そこも拾ってあげるという話であったほうがいいと思います。

とって、認定といいますか、それをした後に、我々委員だけだと当然回らないと思います。どうやってそれを支援してあげられるアドバイザーなりが確保でき、きちんと仕組みとして動いていけるものがないと、今言ったことはできにくいです。しかし、そこをしっかりと考えていくことが多分元年、仕掛けの一番元になる年ですから、しっかりと考えないといけないと思った次第でございます。

続けて言ってしまっていていいですか。

【清水座長】 はい、どうぞ。

【篠原委員】 これは今後選定をしていくときに、我々も現地に行ってみたほうがいい

だろうというご提案、それは賛成です。道の駅のいろいろな重点を選ぶときに、地整から上がってきた部分と、書類の審査をして今まで見つけて認定していったのですが、現実を見てみると全然違うのではないかというのが随分ありました。これは委員が入って、委員が取り消したり、相当やってリメイクして、大分よくなってきました。これは絶対に必要だと。

そのときの共通要件など、この審査のポイントについてです。インフラの場合は、マトリクスのようなものをつくります。まず、首長の意欲がしっかりあるかと、これは1つだと思います。2つ目は、これは協議会も立ち上げることが前提になっています。基本的に、今既に協議体の組織体があるのか。これは自治体と民間、それによって大体協議会はつくられています。これが既にあるかどうかということです。ゼロからつくるのではなくて、既存にあるかどうか。それで、3つ目はよく応援団のようなものがあって、その施設を何か皆で守り立てたいというイベントを皆で打っているなど、その辺も大事だと思います。これが3つ目です。4つ目は、これは我々の客観的な評価も必要です。近隣の観光資源との連携が取れそうなのかどうか。単発でぼんとインフラだけでは厳しいですから、近隣の何か観光の資源的なものと連携していけるかどうか。それから、もう1つ最後です。これは、本来のインフラの質、それを見せてこれから打っていくに耐えられる質の高さがあるかどうかという、この辺の根本的な問題もあると思います。これを点数つけてマトリクスにしてみると、大分間違いない選定になる気がいたします。

続けて言ってしまうと、この18ページの共通要件の④があります。「旅行業の資格がある組織と連携し」ということは、これは私は全然違っていると思っています。これは、先ほど課長が来られる前の来週のご出席の中のお話に出ました。旅行業ではもうなくて、地域のDMOの運用が、まさにこうした管轄を全てやっていく時代なので、旅行業はもう入れる必要がないです。それができれば旅行業がついてくるわけです。この辺の表現はきちんと変えておかないとおかしいと思いました。

とりあえず、先生、すいません。このようなもので1回お返しします。

【清水座長】 いかがですか。私も、ほぼ同じことを思いましたので、今のご発言に重ねます。検証項目、前もご説明を伺ったときに話したかもしれません。この社会実験で何を検証するのか、その場所選びのときにきちんと押さえたほうがいいです。

私自身は6つあるとっていて、まず、種別です。先ほどダムが多いという話があって、

ダムはもう十分地元が意識を持って商品化したところもでてきているので、わざわざ改めて社会実験で入っていくのも、という考え方もあると思います。あえて外すこともあり得るかもしれない。一方で、まだ民間だけではかなり厳しいのと、ノウハウが少ないので、違うダムでやってみるといふ考え方もあります。それはこの社会実験にどのような検証項目を持ってくるかにも関わってくる話です。

2つ目が立地です。主要市場から遠いのか近いのかが多分決定的に効いてきます。同じようなインフラ種別でも立地によって全然効果が違う、やり方が違うこともあり得るかもしれません。次が、現状の集客規模です。パターン1と2に相当すると思います。それから、組織です。先ほど、17ページで「事務所で開始し、」とありました。最初からDMOにしてはどうかと、個人的には思います。そうしないと、この後なかなか伸びないと思います。そういうところとタグが組めるところを選ぶ考え方があるかもしれません。一方で、きちんと事務所主導でやるとどういふ違いがあるのかを検証することができるかもしれません。組織も重要なキーワードかと。

それから、5つ目が、先ほど篠原先生もおっしゃったように周辺資源です。要するに、インフラ単体はすばらしいけれども、周辺資源で巻き込めそうなものは何もないケースもあるし、それ自体は大したことはないけれど、周り巻き込むと結構ポテンシャルを発揮するものもあります。なので、周辺資源の立地状況もかなり影響してくる。それから、インバウンドの体制です。思いついたところで言うと、この6つが検証項目としてはありそうです。

篠原先生がおっしゃったことを違う言い方で表現したと思います。とにかく、この社会実験で何を検証するかを事務局としてはっきりしたほうがいい感じがしました。

ほか、いかがですか。

【河野委員】 よろしいですか。違う観点で、広報のほうです。今挙げていらっしゃる広報の取り組みは、シンポジウムやポータルサイト、動画など国交省さんが主導になって、自分が主語で発信するものだけに今偏っているので、それだと弱いのが正直なところあります。

なので、どういふ組み方にするかはわかりませんが、プレスツアーのようなものを組んで、団体でプレスツアーをすると1カ所にしか行けないので、それはもう事業の組み方にもよりますが、いろいろなところにプレスの人に実際にそれを体験してもらって、彼らの

媒体で発信をしてもらうことをしていかないと。国交省だけの発信だと、そのメディアに届く人に限りがどうしても出てきてしまうので。いろいろなタイプの媒体から発信をさせることによって20代にも届く媒体も呼ぶ。おじちゃん、おばちゃんに届く媒体も呼ぶ感じですよ。別の第三者が発信することによる説得力が出てきますので、そういうものがどこかに入ってきたほうが確実に効果的だとは思いますが。

【事業総括調整官】 はい。

【清水座長】 インフルエンサーを1人つくったほうが効果的ではないでしょうか。

【篠原委員】 今のものにいいですか。広報的なお話であります。今まで取り組んでぐっと名前が出てきたインフラ施設の裏側は、かなり綿密なマスコミ対策をしています。広報戦略をしていて、どうやら今まで私が見ていて「全部それをやめなさい」とお話をしてきたのは、個別などは何か小さなものがあると、すぐどんどんリリースを出して数で勝負のようなものがあります。マスコミの皆さんがごらんになっても、これは来ないでしょう。また、そのリリースのつくり方にしても、非常に魅力を感じないようなリリースが何枚も出てくるだけです。

だから、これは小さなものをためながら具体的な爆弾としてどう落としていくのかです。だから、今回もいろいろな形で始まっていくわけです。あまり成熟しない段階でちょこちょこやっている、はっきり言ってマスコミの皆さんはあまり、だんだん興味がなくなってきました。しっかりと明確な差別化ができるときにゴーンと行くという、こうしたものはしっかりと我々委員とつながっていただければいいご提案ができると思います。

【事業総括調整官】 わかりました。

【篠原委員】 あと、もう1つ気がついたことで先に言ってしまうと、23ページのお話です。このロゴは非常に面白いと思うし、左側が多分有力候補で順番だと思っています。横文字の「INFRATOURISM」と入れていただいて格好良くもいいのですが、「インフラツーリズム」と普通のカタカナの部分の表記も必要だと思います。ぱっと目に入ってくる部分は必要なので、「倍増プロジェクト」の上に「インフラツーリズム」ときちんと入れていく。視覚の部分、それは大事だと思います。

あとは、インフラツーリズムに取り組んでいくときに、この部分でもいいのですが、例えばよく観光庁でつくる部分、いろいろバッジがありますね。そのようなものも併用できるものだと、全国で皆で展開しようということになるかもしれないと思います。

【清水座長】 とりあえずよろしいですか。ほか、いかがでしょうか。お願いします。

【阿部委員】 意見というより質問です。このモデル地区の社会実験は、本省サイドはどれくらいバックアップするのですか。「勝手にやってください」とモデル的に検証するのか、ある程度予算の面でもケアするのか。

【観光・地域づくり事業調整官】 先ほど篠原先生から数のご指摘がございました。実はおっしゃるように、やれということだけでただ指示するだけでは全然動きません。次年度、本省で運営を補助できるようなある程度体制、外注になりますが、そういうものを確保した上で進めていきたいと思っております。それで、そういう確保できるところの割合から5カ所程度とご提案を、実はさせていただいたところがございます。おっしゃるように、ただ「手引きからあとはこの通りやりなさい」では全然進みませんので、そこには本省のそういう支援と先生方のご助言で回していけるのが、とりあえず5カ所程度とご提案させていただいております。

【阿部委員】 そうすると、きちんと選ばないと、社会実験はうまくいったが、その後続かないということにもなりかねませんね。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい、そうです。

【阿部委員】 また、インフラは山奥の施設もあるので、スケジュールをきちんと念頭においておかないと、砂防やダムなどは、冬場は見に行けない施設になってしまうかもしれません。5月、6月ぐらいに決まるということであれば大丈夫だと思います。そうしたインフラの種別にも配慮が必要ですね。

【河野委員】 雪解け以降降り始めるまでの期間に限られるかと。

【阿部委員】 それから、海などはしけで荒れるということもあります。それがインフラツーリズムの魅力なのかもしれませんが。

ロゴマークに関しては、真ん中のものは沖縄が入っていませんので、再考が必要かと思えます。

【事業総括調整官】 わかりました。

【篠原委員】 よろしいですか。数のお話です。これはなかなか、観光は生き物なので難しく、いいと思って採択した後、地域の1人の人がこけてしまうと皆ばらばらになったりということがあります。だから、5件の部分でいいだろうと思って選んでも、それが育っていくかというところでもなく、ほかの予備軍の先ほど言った重点的な堰堤などぐっ

と伸びたり、あるものです。だから、その辺の部分の1個あたりの労力のかけ方はありますが、ある程度の数と一緒に育てていただくベース、スタートラインをつくっておかないと、何とか成功しなければならない。1年の成果をちょうど今頃ですね。そのためには、最低10本ぐらいの候補はきちんとつくって頑張るぐらいでないと、結果が望めない気がします。

【清水座長】 いかがですか。私は、検証に徹する手もあると思っています。今回着目したところがその後伸びるかどうかはともかく、当局として検証したいところを検証する手もあると思います。そこでヒントが得られて横展開できると、あとは勝手に伸びていくかもしれないです。なかなかこういう機会でもないと検証できないことを検証するという考え方があると思います。かなりポリシーが違う話になりますが。そこは考え方次第です。予算規模があるので、その中でできる範囲があると思います。

【河野委員】 予備軍にはアドバイザー派遣ではないけれども、次につなげるための助走だけかけておくなど、そういう緩急をつけるのもありかもしれないですね。

【清水座長】 そういうのはあるかもしれませんが。独自予算でやっていただくのは全然構わないわけです。そういうところには少しアドバイスをすることができればよいかと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 全国的にさらに今後も当然できますので、拡大していくと思います。ただ、その中でも、本省でも力を入れて、まずはモデルをもっと増やしたいというところで5カ所程度ですいません。そういうご提案をさせていただいております。

【事業総括調整官】 濃淡のつけ方やいろいろ工夫できると思います。「5」という数字が印象的に歩いておりますが、もう少し裾野を広げることも含めて考えてやっていきたいと思います。

【篠原委員】 多分予算の面もあると思います。今日は畠中課長が来られていますが、観光庁も今こういう観光連携の部分で、専門家派遣事業があります。このインフラツーリズムは、まさにダムだけの話ではないわけです。地域資源をつなげて広域ルートの中につなげていくという1つの柱になる可能性があるわけです。ダムだけの指導だとなかなか枠組みが厳しいです。そうした部分も、課長、うまくつなげられるようにしていただきたい。

【観光地域振興課長】 はい、承知しました。

【篠原委員】 ぜひその辺の部分は連携いただくと、いろいろな方がいるかと思いで。

【清水座長】 ほか、いかがですか。

21 ページで、モデル地区で実践しながらいろいろな調査をする、是非いろいろやっていただきたいのですが、この2番です。このWEB調査は、主目的は効果検証用でしょうか。以前にやっているような同種の調査ですか。

【事業総括調整官】 そうですね。効果検証用とニーズを新たに把握するためと2つあります。

【清水座長】 なるほど。ニーズを拾えますか。

【河野委員】 きついと思う。

【事業総括調整官】 そうですか。

【清水座長】 こういう通り一遍等の調査で、なかなかニーズは取れないです。

【事業総括調整官】 なるほど。

【清水座長】 それだったら、例えば留学生によるモニター検証をかなりインテンシブにやって、もっと細かいレベルとといいますか、オペレーショナルな課題を拾ったほうがよろしいのではないのでしょうか。このWEB調査は、多分意図としては検証用というものがあります。ニーズを拾うよりは効果検証に徹して、本来見たい部分、ニーズの部分は少し違うやり方で、例えば留学生やモニターを使って、もっと細かいレベルで拾っていくことがよろしいかと思えます。

【事業総括調整官】 わかりました。元々留学生を対象にいろいろ働きかけはしようと思っていました。その行ってみてもらった留学生の方に現地での感想を聞くだけではなくて、来られている留学生の方々に、そもそもニーズ調査をするのもやり方としてはあります。

【清水座長】 例えば、体験していただいた後に少しワークショップなどをやってみる、言葉は大変ですが、いろいろな観点でご意見を伺う。「ここまで見れたならこれも見たかった」、「日本人は面白いかもしれないけれども我々はちょっとね」など。

【河野委員】 「うちの国にはこれはいっぱいあるし」のような。

【事業総括調整官】 なるほど、わかりました。

【清水座長】 そういう意見は、たくさん出てくるのではないかと。いろいろな国籍の

人を合わせると。

【河野委員】 それこそいろいろなパターンの種別やフェーズが違うところに、いっぱいそれぞれ飛ばして、同じ条件でワークショップなり、グループインタビューなり、そのほうが面白い。通訳は大変ですね。でも、日本にいる外国人の方ならある程度できるかと。

【事業総括調整官】 スマートフォンでこうやってできるものもありますから、観光庁さんがPRされているものもありますので、そういうものも活用してやってみようと思います。

【清水座長】 インバウンドを見据えると、日本語ができない方の方がいいですね。

【河野委員】 ほんとうはね。でも、日本で留学生、日本語ではグループインタビューはできないレベルが多い。片言レベルで、英語か中国語がメイン。

【清水座長】 英語でやるしかないですね。

【河野委員】 これまでやっていた感覚だと、中国系が絶対多いので中国人の通訳も入れておく必要はあると。

【清水座長】 三峡ダムはもっとすごいと言われても、規模で勝てない。

ほか、いかがでしょうか。あと、プロジェクト名はいかがですか。これは一番聞きたいです。

【事業総括調整官】 直球にしてみました。あえて直球で。

【河野委員】 いいのではないですか。

【清水座長】 そんなに否定するほどのものでもない感じはします。阿部先生はいかがですか。

【阿部委員】 いいと思います。

【清水座長】 大丈夫ですか。ロゴは次回議論しますか。これらの案はデザイナーの方につくっていただいているということですよ。

【事業総括調整官】 そうです。

【清水座長】 使い方によって随分違いますよね。動画の背景には一番右側のほうがよさそうですし、パンフレットやいろいろな資料にわかりやすくつけるのならば、後の2つがよさそう。見た目が機能によって違って、なかなか悩ましいと思います。こういう検討は、担い手の方の意見も大事だと思いますので、検証していく項目として挙げて、まだ成案を決めないということですね。わかりました。

あとは大体よろしいでしょうか。わかりました。

では、資料4ですか。今後のスケジュール、よろしくお願いします。

【事業総括調整官】 ご提言のもう1つ大事な資料をご紹介します。A3の資料3です。今大体一通り、先生方にご議論いただきました。先生方から提言をいただいた形で、まとめていきたいとも考えております。白パンのような形にすることも多いですが、今回は現場で、いろいろなところでコンパクトに見てもらえるような提言で、資料3の形で今つくる案を考えております。以前、1枚ものでご紹介していました。内容も増えてきましたので、2枚程度にしてはどうかと考えています。

1枚目では、これまでの取り組みや現状・課題を簡単に上のほうに整備した中で、本日勘所としてご紹介させていただいた項目を1枚目の下のメインのコンテンツとして入れてみてはどうかと考えています。2枚目では、インフラツーリズムの更なる拡大に向けてということで、今名前はこれでいいのではないかとっていただいた「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」と、その中でどのような概念を打ち出して整備していくのかということと、将来的にももう少し深めていくところと、今日ご議論いただいた内容をこのような形でまとめて、現場に広く浸透していくものにしていってはどうかと考えております。こちらのほうもご審議いただければと思います。

【清水座長】 承知いたしました。これはいかがでしょうか。とりあえず、いろいろな議論をまとめたということですよ。

【事業総括調整官】 内容は本日いただいたものをまとめていきたいと考えております。

【清水座長】 わかりました。これは粛々とということですかね。

【事業総括調整官】 で、資料4。

【観光・地域づくり事業調整官】 資料4は1枚だけ、今後のスケジュールです。今年度は3回委員会をやっていただきました。どうもありがとうございました。先ほどの説明の中にも触れておりますが、これからまた日程調整をさせていただきます。大体第4回懇談会を5、6月ぐらいに、この前に例の現地調査をしていただいた上で懇談会という形の、タイトではございます。次年度のツアーを実際やる時期が冬の時期となると大変ですので、そこは短期間で調整をさせていただきますして、モデルを決めて6月下旬ぐらいからモデル地区で動き出せる形で、また先生方をお願いをしたいと思っております。

それ以降につきましては、イメージとしましては、ある程度モデル地区が動き出してか

ら、そのモデル地区の中間報告のようなものをいただきながら、実際これはその翌年度の2020年度までの2カ年のプロジェクトとしております。その中で、また引き続き先生方にご意見をいただいで進めたいと考えております。

以上です。

【清水座長】 ありがとうございます。これはこういう形で承ったということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、全体を通じてご意見等ございますか。言い残したなど、大丈夫ですか。わかりました。本日さまざまにご意見を賜ったところではありますが、事務局でなるべくご対応いただきまして、最終的には座長の私のほうで確認をさせていただいて、今年度取りまとめと、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【清水座長】 ありがとうございます。

それでは、本日の議事については以上で終わりですので、進行を事務局にお返しいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 それでは、清水座長、円滑な議事進行をほんとうにありがとうございました。また、委員の皆様には長時間にわたるご議論をほんとうにありがとうございます。

それでは、第3回インフラツーリズム有識者懇談会の閉会にあたりまして、総合政策局公共事業企画調整課長の丹羽よりご挨拶申し上げます。

【公共事業企画調整課長】 本日は年度末近くになってお忙しいところ、非常に貴重なご意見をありがとうございました。また、毎度のことながら、いろいろな我々が全然気づかないような貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。

議論を聞かせていただいて、第1回目だと全然我々はあさっての方向をつくっていたのが、方向ぐらいは合ってきたのではないかという気がしております。今日いただいたご意見、アドバイスを踏まえまして、また修正をさせていただいて、次回につなげていきたいと思えます。引き続き、先生方にはご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。本日の議事録につきましては、また後日事務局から各委員のご確認をいただいた上で、ホームページに掲載をさせ

ていただく予定としております。

それでは、以上をもちまして、第3回のインフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。本日はほんとうにありがとうございました。

— 了 —